

ゲストコラム

◎和歌山県は全国有数の移住母県です。当県から海外への移住は明治初期から始まり、その数は全国第6位となっています。ブラジルをはじめとする中南米や北米などの渡航先では移住者やその子弟により、和歌山県人会が結成されています。今回はブラジルとアルゼンチンにある和歌山県人会の子弟が県内に3週間滞在し、様々な交流を通じて、彼らのルーツである和歌山について学びました。(以下、感想文抜粋)

名前 高木大介トンソンさん

出身地 ブラジル・南マットグロッソ州

日本人社会は、僕たちブラジル人からうらやましがられています。日本人は礼儀を守り、落ち着いていて、気配りがあり、自然・環境に気を使います。そんなことをするブラジル人は少ないです。それから、日本食はとてもよく、観光地も素晴らしいと思います。



この研修全体が僕の考え方を前向きに変え、人生の目的も僕の生涯の観点も変わりました。この旅が実現してとてもうれしく感じています。多くの人々と触れ合うことができ、だれもが親切にして下さって感謝しています。日本文化を自宅で使い、つぎの世代にも伝えたいです。



↑ホストファミリーに連れて行ってもらった高野山で初めて見た雪。

名前 蒲田浩フェルナンドさん

出身地 アルゼンチン・ミシオネス州

親戚と出会って大変嬉しかった。祖母が育った所を色々案内してくれてとても楽しかったです。祖母のいとこに会った時、母や曾祖父が和歌山に行った時の話をしてくれて楽しかったです。

那賀高校で行われた交流会では、学生と食事の時間にお弁当を食べながら会話をとても楽しかったです。それから、日本の文化や和歌山の観光地を教えてくれてとてもよかったと思います。日本とアルゼンチンの違いを話してとても面白かったです。



このプログラムに参加させて貰ってとても嬉しかったです。そして、沢山の友達を作ることができました。それから、身につけた日本の文化や習慣をアルゼンチン



ンで伝えたいです。それだけではなくて、日本の経験を次の世代に伝えたいと思っています。最後は日本語を話せるようになってとても嬉しかったです。